

業績のハイライト

損益の状況(連結)

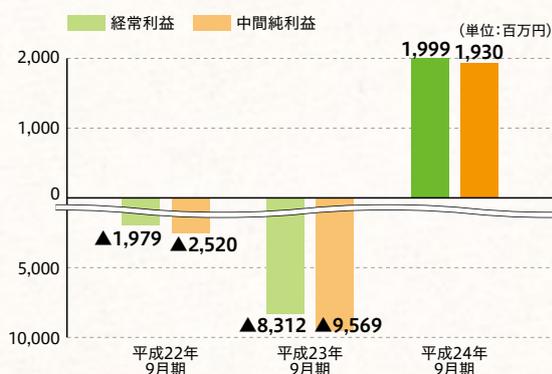
当中間連結会計期間の損益につきましては、前連結会計年度末までに震災関連の与信関係費用を累計で75億円程度計上しましたが、当中間連結会計期間において取引先の業況推移等を確認した結果、貸倒引当金戻入益を10億40百万円計上したことなどから、連結経常収益は、前年同期比17億8百万円増加の91億3百万円となりました。

一方、連結経常費用は、利回り低下に伴う資金調達費用の減少のほか、前年同期は震災による貸倒引当金及び有価証券の減損処理を計上していたことなどから、前年同期比86億3百万円減少の71億3百万円となりました。

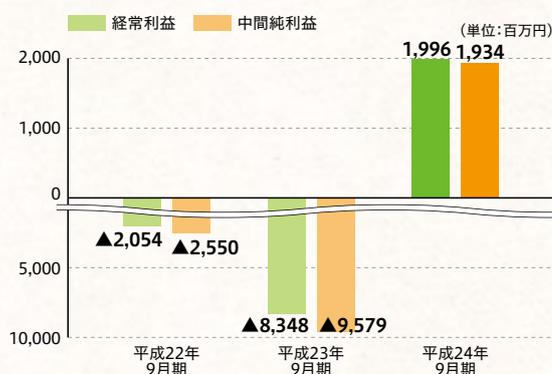
その結果、連結経常利益は、前年同期比103億12百万円増加の19億99百万円となりました。

また、連結中間純利益は、前年同期比114億99百万円増加の19億30百万円となりました。

経常利益・中間純利益の状況(連結)

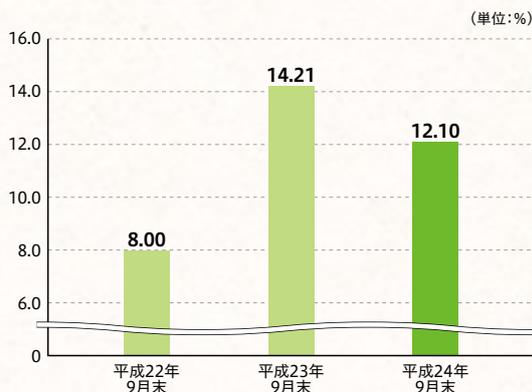


経常利益・中間純利益の状況(単体)



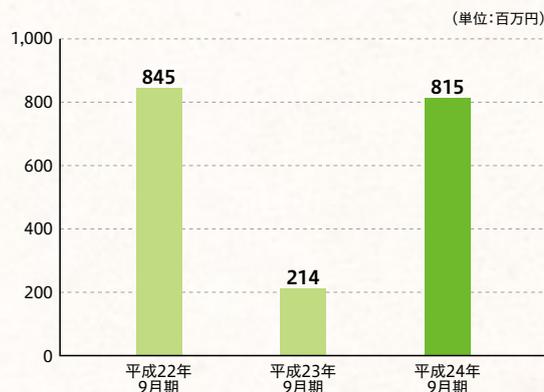
自己資本比率(国内基準)の状況(単体)

単体自己資本比率(国内基準)は、経営強化計画に基づき、平成23年度下半期に期限が到来した劣後ローン55億円を順次返済したことなどから、前年同期比2.11ポイント低下の12.10%となりました。



コア業務純益の状況(単体)

銀行の本業部分の収益を表すコア業務純益は、資金利益及び役員取引等利益がともに増加したほか、物件費の節減に努めたことなどから、前年同期比6億1百万円増加の8億15百万円となりました。

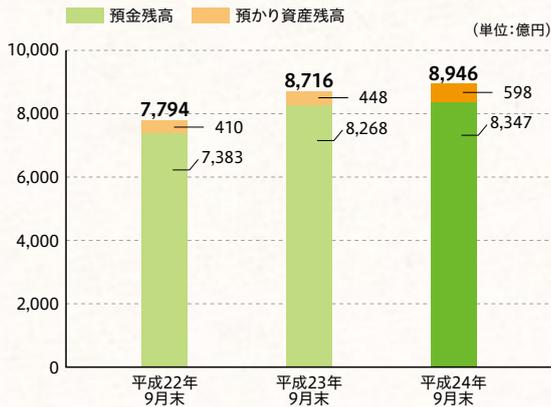


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。

預金・預かり資産の状況

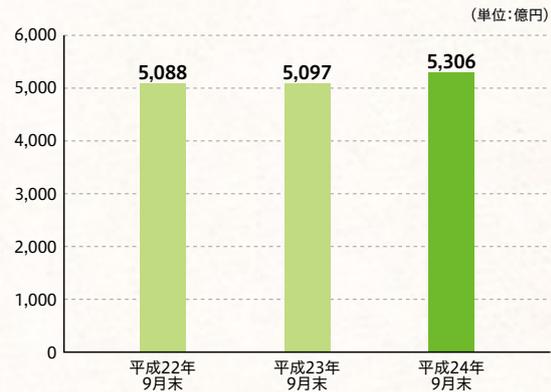
預金残高は、被災者の住宅修繕など復興資金としての払出等により個人預金が減少しましたが、法人預金や公金預金が増加したことから、前年同期比79億48百万円増加の8,347億65百万円となりました。



※預金には譲渡性預金を含みません。

貸出金の状況

貸出金残高は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要に積極的に対応した結果、中小企業向け貸出残高が増加したことなどから、前年同期比208億48百万円増加の5,306億3百万円となりました。

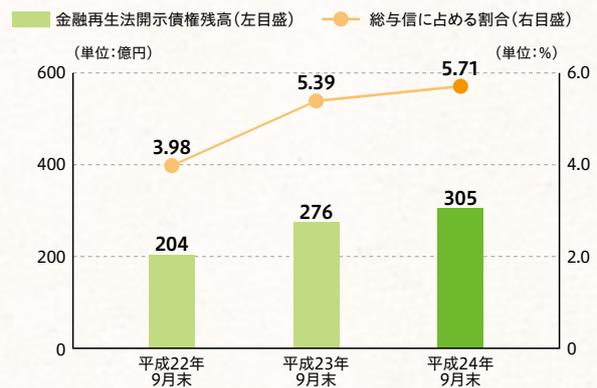


金融再生法開示債権

平成24年9月末の金融再生法に基づく開示債権は、前年同期比28億29百万円増加し、305億10百万円、開示債権比率は0.32ポイント上昇の5.71%となりました。

今後も引き続き、お取引企業に対する財務内容改善等ノウハウの提供に係る経営支援、経営指導をこれまで以上に強化し、資産の健全化に努めてまいります。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
 ※単体自己資本比率(国内基準)は銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。
 ※決算の詳細につきましては、仙台銀行ホームページ (<http://www.sendai.bank.co.jp/>) をご覧ください。

■ **経常利益** 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ **中間純利益** 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。